

脱炭素、EUタクソミーへ向けた廃棄物処理のあり方研究会 (第1回)

論 点

- ①EUタクソミーの現状確認について
- ②WtEによって得られるエネルギー利用について
- ③地域特性を踏まえた廃棄物処理について

脱炭素、EUタクソミーへ向けた廃棄物処理のあり方研究会 (第1回) 論 点

①EUタクソミーの現状確認について

■6つの環境目標

- 気候変動の緩和 } 2020年6月法制化
- 気候変動の適応 } 2022年1月適用開始

- 水資源と海洋資源の持続可能な利用保全
- サーキュラエコノミーへの移行
- 汚染の防止と管理
- 生物多様性とエコシステムの保全と再生



◆4つの要件

- ◆6つの環境目標のうち、1つ以上に実質的に貢献
- ◆残りの環境目標に重大な損害を与えない
- ◆最低限のセーフガードに準拠
- ◆技術スクリーニング基準に準拠



(4つの要件を全て満たす場合)

「持続可能な経済活動」に該当

脱炭素、EUタクソミーへ向けた廃棄物処理のあり方研究会 (第1回) 論 点

①EUタクソミーの現状確認について

■環境目標・・・どのように貢献？

■気候変動の緩和

■サーキュラエコノミーへの移行

⇒適切な方法で対応すれば対応可能ではないか？

①メタン問題(ごみの直接埋立)をどう考えるか？

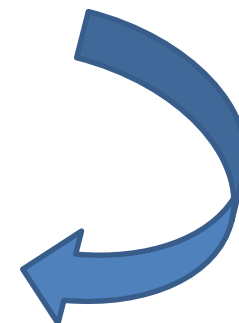
②ごみ焼却施設における熱回収率をどう高めるか？

③熱利用をどのように進めていくのか？

④CCU等をどのように導入していくのか？

⑤プラスチック資源循環を推進しつつどのように対応するか？

■汚染の防止と管理 ⇒実質的に貢献できるのではないか？



脱炭素、EUタクソミーへ向けた廃棄物処理のあり方研究会 (第1回) 論 点

①EUタクソミーの現状確認について

EU圏におけるWtEに関する関係団体の意見

焼却賛成派

【団体】CEWEP、ESWET、FEAD
【前提】リサイクル不能な非有害の焼却処理は保留状態である。
【主な意見】
・廃棄物処理のヒエラルキーを考えると、3Rを徹底した後でのみ、WTE(エネルギー回収があるレベルまで可能になるもののみ)は認めるべき。
・2050年までの移行期においてはリサイクル残渣の発生は避けがたい、その処理をすべて埋立てに頼ることは持続可能ではない。WTEで処理し熱回収することが持続可能に繋がる。
・MBTは選別された資源と呼ばれるものの質が悪い、廃プラは多くが中国に輸出されていたが禁止されて戻って来てあふれている。健全なリサイクル市場を作るには流通できる質の資源化技術がいる。現状は不十分である。
・途上国における廃棄物処理水準の向上にはWTEは必須である、この技術をブラウンと評価すると施設建設への投資が集まらなくなり、経済的に制裁を受けるのと同じである。



焼却反対派

【団体】環境NGO
【前提】リサイクル不能な有害廃棄物の焼却は認められている。メタン、コンポスト処理も認められている。
【主な意見】
・3Rを十分に行えば、メタンやコンポスト処理が可能であるため、必ずしも焼却を行う必要はない。
・3Rの徹底後とはどのような基準か？いつの間にか3Rが不徹底なまま焼却処理が進行する。

・大前提として「焼却は廃棄物ヒエラルキーに則ればサーキュラーエコノミーに貢献し、他の環境目的にも反しない」

- ・最優先は「廃棄物の排出抑止」
- ・全ての廃棄物をリサイクルできない
- ・ヒエラルキーには更に2つの段階
⇒WtE技術をはじめとする、廃棄物からのエネルギー回収
⇒最終的な選択肢として、廃棄物の埋立処理

関係団体の共通認識

・タクソミーにおけるWtEに関するオープンな議論が必要である

脱炭素、EUタクソミーへ向けた廃棄物処理のあり方研究会 (第1回) 論 点

①EUタクソミーの現状確認について

①メタン問題(ごみの直接埋立)をどう考えるか？

⇒メタン発生との関連で焼却処理をどのように評価するか

②ごみ焼却施設において熱回収率をどう高めるか？

⇒施設の大型化(広域化・集約化)

③熱利用をどのように進めていくのか？

⇒電気以外の利用(熱供給)

④CCU等をどのように導入していくのか？

⇒技術の動向、地域特性(利用先)

⑤プラスチック資源循環を推進しつつどのように対応するか？

⇒プラスチック資源循環を踏まえたごみ焼却のあり方

脱炭素、EUタクソミーへ向けた廃棄物処理のあり方研究会 (第1回) 論 点

②WtEによって得られるエネルギー利用について

■再生可能エネルギー(導入が進む)

- ・WtEは今後どうなるのか？

- ⇒WtEによって得られる電力の価値はどうなるか？

■エネルギー回収率の向上(プラスチック資源循環が前提)

- ・発電効率の向上

- ・熱供給の推進

脱炭素、EUタクソミーへ向けた廃棄物処理のあり方研究会 (第1回) 論 点

③地域特性を踏まえた廃棄物処理について

■大型施設の整備(処理施設の大型化)

CCU等の観点からも大型化が必要

一層の広域化・集約をどのように進めていくのか？

■地域特性

- ・熱供給や回収したCO₂の利用先も考慮した立地の考え方
- ・大都市と地方都市(中小都市)の考え方
⇒地方都市(中小都市)のごみ処理の進め方